

©朝日小学生新聞社
〒104-8433 東京都中央区築地5-3-2 朝日新聞社新館9階
電話 03-3545-5223(広報) 03-3545-5222(編集)
購読申し込み 0120-415843 ウェブサイト www.asagaku.jp



神奈川県箱根町の「星の王子さまミュージアム」＝星の王子さまミュージアム提供

世界の人々が愛読

『星の王子さま』

サン＝テグジュペリ生誕120年

『星の王子さま』は、フランス人作家のサン＝テグジュペリが文とさし絵をかいた作品で、出版から80年近くたった今も多くの国で読まれています。サン＝テグジュペリが生まれてから、29日で120年。『星の王子さま』の魅力や、作者の人となりを紹介します。

(近藤理恵)

美しい情景を想像して読んで

『星の王子さま』は1943年に出版され、今では世界の200以上の国と地域で翻訳されているといえます。累計の発行部数は2億冊以上に上ります。砂漠に不時着したパイロットが小さな星からきた「王子さま」と出会う、不思議なお話です。フランス文学者の奥本大三郎さんは、作品にひきつけられた一人です。何度も読み返しまし

奥本さんの翻訳による「漫画 星の王子さま」(漫画 やましたこうへい)が小学館のWEBサイト「P+D MAGAZINE」で連載中。単行本が10月発売予定。https://pdmagazine.jp/trend/lepetitprince-15/ ©Kohei Yamashita



大人って、数字が好きなんだね。
あたらしい友達の話をする時、大切なことは聞かない。

小学生のみならずにはわからない部分もあるかもしれない。しかし、奥本さんは「気にしないで読んで」とすすめています。「砂漠や星の世界などの情景を想像すると、美しい世界にいるような気持ちになるでしょ」

「うぬぼれ屋」や、お金のことばかり気にする「ビジネスマン」と出会います。彼らと話した王子さまは、「大人って変わった人たちだな」と思います。奥本さんは「王子さま、つまり子どもは、自分にとって大切なことをしっかり持っている。しかし、小惑星に住む大人たちの話は、大人になるとそれを忘れてしまうことを示している」と解釈します。「自分の心の中に、星の王子さまがいると、自分の行動が本当にそれでいいのか、考えることができるようになります」



『星の王子さま』(原作 サン＝テグジュペリ、文 奥本大三郎、白泉社)奥本さんが特に大切だと思うところを選び、短くまとめた本です

広い視野で物事とらえた人

星の王子さまミュージアム(神奈川県箱根町) 広報・都路一海さんの話

『星の王子さま』は、人間とは何か、人とのつながり、愛や死といった、普遍的なメッセージが盛りこまれていることで、世代をこえたたくさんのファンがいるのだと思います。読む時によって、何が心にささるか変わってきます。「鏡のような作品」ともいえるでしょう。

サン＝テグジュペリは、飛行機の操縦士でもありました。自らも1935年に砂漠で不時着を経験したことがあります。空から地球をながめることで、彼は、広い視野で物事をとらえるようになったのだと思います。第2次世界大戦中に出版された『人間の大地』という本の中では、人間を、同じ惑星の仲間として、そして同じ船の乗組員ととらえて、表現しています。サン＝テグジュペリの少年時代は、決して優秀な生徒ではありませんでした。しかし、飛行機や文学といった自分にとって好きなことをつらぬき通した人でもあります。挫折しても書き続けたことで、『星の王子さま』が生まれたのです。

天声(こと)語

日本のスーパーコンピューター「富岳」が計算の速さで世界一になりました。日本のスーパーコンピューターが世界一になるのは「京」以来9年ぶりです▼当時、京をめぐるのは考えさせられる議論がありました。京は世界一を目指してたくさんのお金を使っていたため、お金のむだづかいをさがしていた政治家から「2位じゃだめなんですか」と言われました。これに対して科学者たちは「1位を目指さなければ2位3位にもなれない」などと強く反論しました▼大ヒットした「世界に一つだけの花」という曲は「ナンバーワンにならなくてもいい」という歌詞で始まります。1位にこだわらなくてもいい、といわれて楽になった人も多かったと思います▼1位という目標がなければ人は一生懸命努力しないかもしれません。一方、順位なんてこだわらなくてもいいという考え方もあります。みなさんはどう思いますか。

セカイの力

小6男子アヤとレン 過去と現在にわかれて 過ごした1年間の成長物語

嘉成晴香 小倉マユコ 絵

定価1200円+税

朝日小学生新聞社 わくは www.asagaku.jp